

境界のバッファ

高さを増していく都市、池袋。その都市の周りには水平に広がる集合密集住宅地がある。二つの境界はボリュームとなって体現されている。池袋の都市と住宅地の境界近すぎるが故に切断されたように高低差が生まれている。この高低差は低層の住民に圧力的である。まずこのスカイラインをつなぐボリュームを設計する。つながったスカイラインは圧力を軽減する。また、商業と住宅が密接に存在していることで互いに影響しあっている。ここにバッファ（緩衝空間）を設計する。バッファによって人は都市の圧力（音、エネルギー、光害）から解放され、内包された空間のなかで穏やかな生活を可能とする。



construction

diagram

垂直と水平

垂直と水平をなだらかにつなぎ合わせ、アウトラインを作成。

断面的にだけでなく立体的にも高層と低層の建物をつないでいく。作られたアウトラインは南に向かって傾斜し、日光を受け止め、緑のラインをつくる。

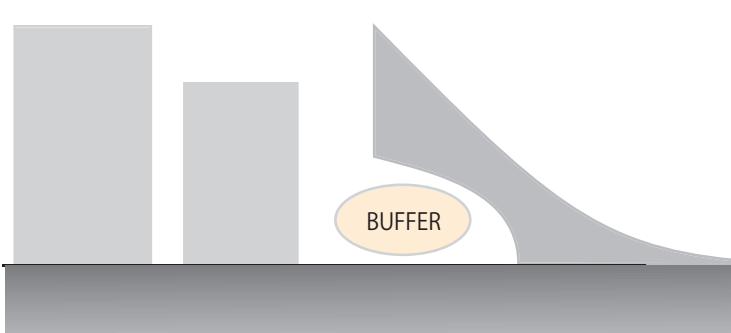
対角線

約 180m×180mの敷地を対角線で切り、高層地域側には商業的なファサードをつくり、低層地域側の面には緑のファサードを作り出した。高層都市側からは商業的な箱モノとして見え、住宅密集地からは緑の丘のように見える。

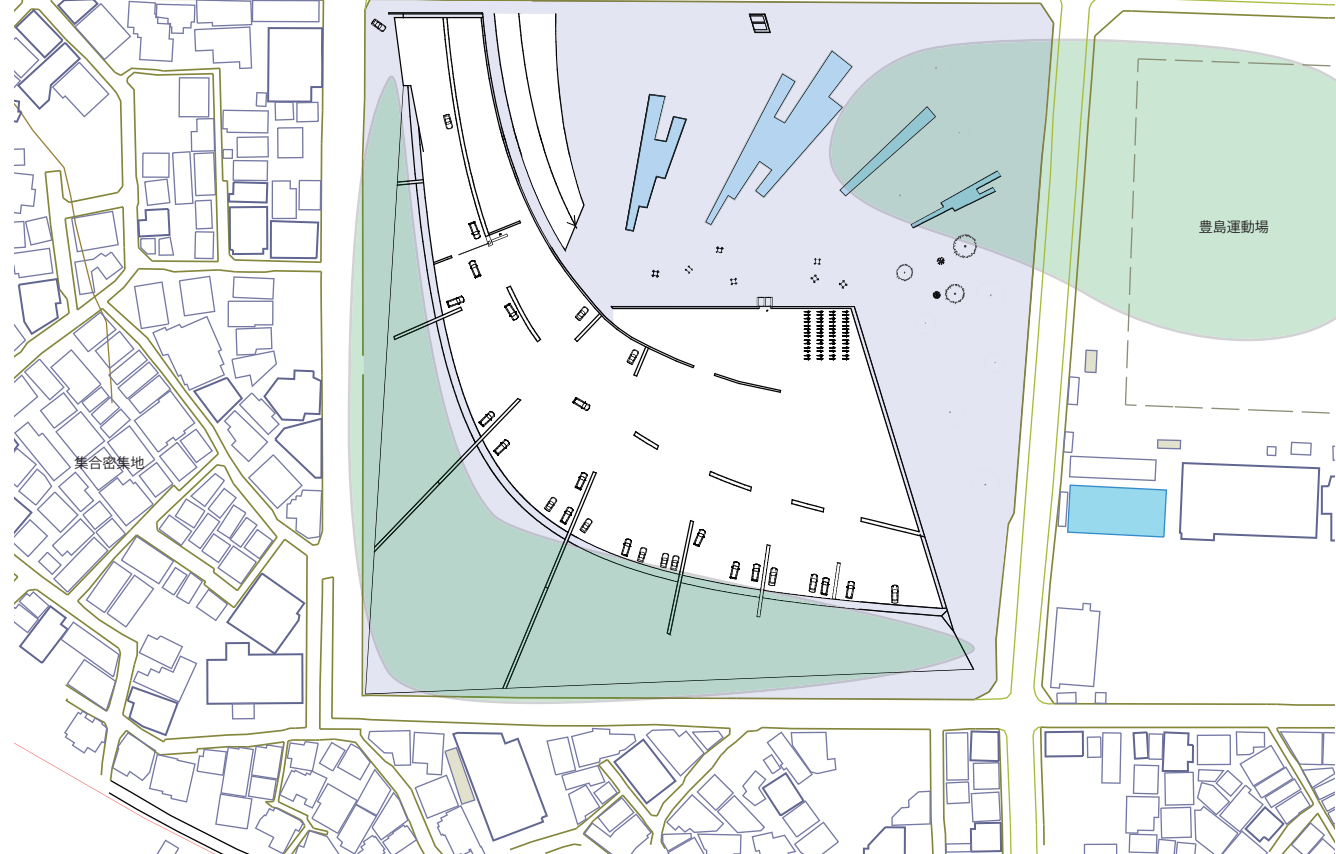
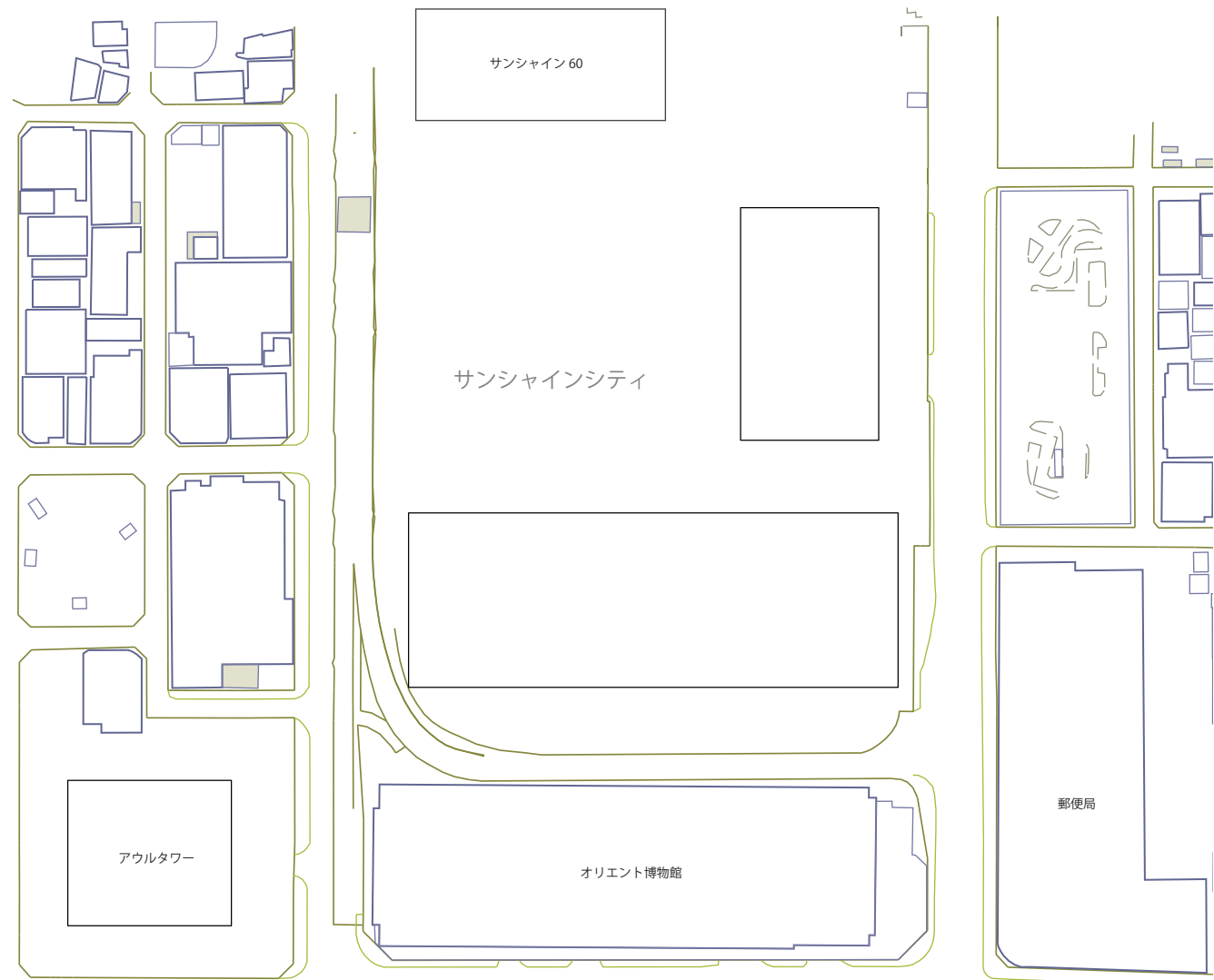
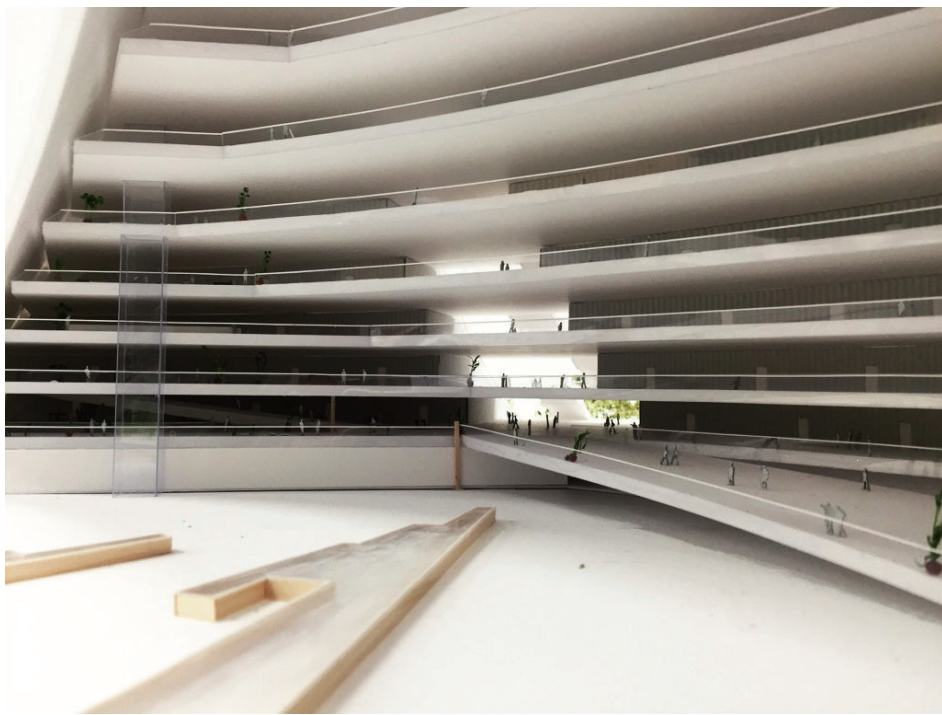
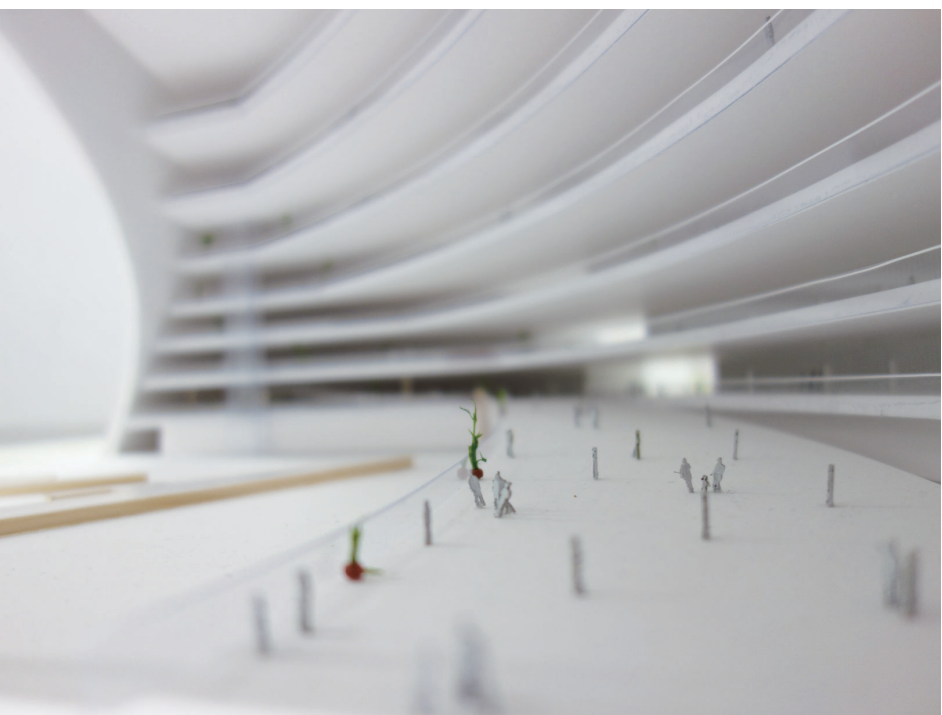
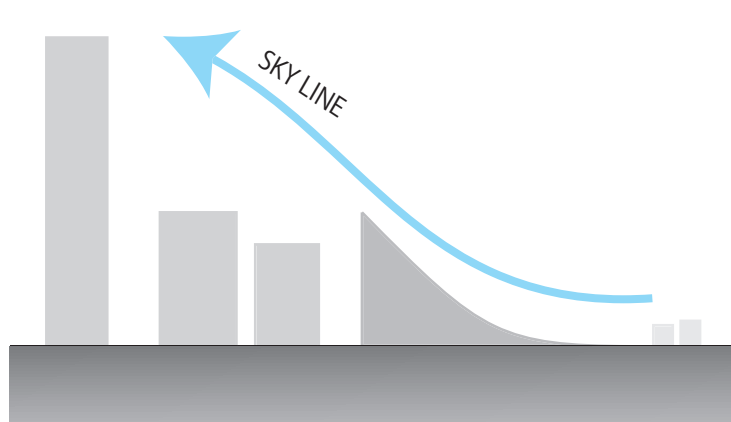
buffer<バッファ>

高エネルギーな都市と集合密集地との間に緩衝空間をつくる。そこには直射日光はなく間接光がうつすらと中を照らし出し、かすかな光は水面や壁面にあたり、空間を染める。

バッファの形成



スカイラインの形成



1F 平面図 1/500

